

ニューヨークの地下鉄における Music Under New York 事業について

ニューヨーク事務所

ニューヨーク市内の地下鉄では、構内や駅のホームで音楽演奏やパフォーマンスを行なっている人達を見かけます。

これは、ニューヨーク州の関係法人のMetropolitan Transportation Agency（以下、「MTA」という。）が実施している Music Under New York 事業（以下、「MUNY」という。）によるもので、演奏者はオーディションを経て、地下鉄構内等で演奏する権利を得ています。今回は MUNY の情報をお伝えします。

1 MUNY とは

MTA では、1980 年代に地下鉄を大幅にリニューアルする際に、構内にタイル壁画や写真パネルの設置などを行うため、Arts for Transit（以下、「AFT」という。）事業を開始しました。

MUNY は AFT の音楽部門に当たり、地下鉄の利用が利用者にとってより魅力的なものにすることを目的として始めました。ニューヨーク市の地下鉄を中心に約 30 か所が演奏場所として設定され、地下鉄構内やホームで様々な種類の演奏がされており、乗客が演奏に足を止めて聞き入っている光景がよく見られます。年間を通じて 7,500 件を超える演奏が行われており、毎日どこかの演奏場所で彼らの音楽を聴くことができます。



Herald Square 駅構内で演奏する演者

2 演奏者のオーディション

MUNY のオーディションは毎年 1 回行われており、年明け頃から新規の募集が始まります。誰でも応募することが可能で、希望者は申請書類と実演 DVD・CD を MTA に提出します。この書類選考を通過した者は、グランドセントラル駅で実施されるオーディションに出場し、音楽業界の関係者や MTA 職員などといった審査員の前でライブを行います。このオーディションは公開で行われており、誰でもその様子を見学することができます。合格した演奏



Grand Central 駅でのオーディション

者やグループは、現時点で通算 350 組にも上っており、今年のオーディションは5月半ばに行われました。出場者の中には、音楽演奏をする出場者だけでなく、手品を披露する出場者の姿もありました。

3 構内の利用規則との兼ね合い

MTA は、地下鉄構内の利用規則として Rules of Conduct & Fines を定めており、構内で可能な行為や禁止行為などを明確にしています。この規則では、乗客の通行の妨げになるような行為や、金品などの寄付を求める行為は、許可がない限り禁止されています。MUNY の演奏者については、これらの行為が許可されており、CD の販売は禁止されているものの、構内の指定された場所での演奏や投げ銭の受け取りが認められています。

4 終わりに

AFT による装飾品の展示や、MUNY による地下鉄構内の音楽演奏は、地下鉄の殺風景な空間に彩りを与えています。地下鉄の構内から流れ聞こえる音楽は、ニューヨークを構成する1つの要素であると言っても過言ではないでしょう。

(酒井所長補佐 総務省派遣)

